同窓会会報
第15号
昭和46年7月1日
発行所
茨城県東茨城郡
内原町鯉渕5965
鯉渕学園同窓会
印刷所
山田軽印刷所

鯉渕学園の将来計画

副学園長　石橋幸雄

学園は昨年から三ケ年制に移行して、現在一、二年生あわせて二二〇名の学生がいますが、来年は全学年が揃いますので、総数二六〇名ほどになります。

この三ケ年制移行にともなって、学園の教育内容から教育施設、農場にわたって、年次計画をもって整備充実をはかり、学園の経営改善を学園全体が一体となって強力に進めることになりました。学園は数年前から漸次施設の整備を進めてまいりましたが、この計画が実現することによって、学園は教育、施設、農場にわたって一新することになります。このことについては部分的にはいままでにも述べてまいりましたが、ここに年次計画ができた機会に改めてその大要を述べて、皆さんのご諒承とご支援をえたいと思います。

三ケ年制移行にともなって、大きく変貌してゆく農業や農村社会のなかにあって、学園の教育目標である地域社会の農業や農村生活の改善発展のための中核として指導的役割を果す人材の教育という立場から、学園の教育方針にそって、さらに高い技術とはば広い洞察力とすぐれた組織能力とたくましい実践力を身につけることがきわめて大切であるということから、さきにこの会報でも述べましたように、教科課程については、一般教養科目、基礎科目、専門科目にわたって、従来時間の関係でできなかったいくつかの新たな科目を加えて、全体としてその充実をはかりました。いっぽう実験・実習を重視して園芸、畜産、生活栄養にわたって新たに実験・実習の充実、強化をはかり、とくに農場実習については、学園教育の重要な一環として重視し、そこに学園の教育の一つの重要な特質と性格を打ちだすために、その整備・充実を進めることになりました。三ケ年を通して学園の教育における時間の配分をみますと、おおむね農業科は講義六〇%、実験・演習一二%、実習二八%、生活栄養科は講義六〇%、実験・演習一四%、実習（調理・給食管理・被服・家庭管理・育児・農場実習など）二六%ということになります。すでに今年から二年生について八月を利用して実施することになった学外実習については七月二三日から一斉に各地の特徴のある優秀農家のうちに出掛けて現地実習にはいることになります。同窓生諸君にもなにかとご厄介になる者もいるかと思いますので、その際は何分にもお世話とご指導のほどをお願い致します。

学園はこうして講義、実験、演習、実習を相互に連けいしそれらを一体として、三ケ年制でねらった教育成果をできるだけ高揚するように努力を傾到していますが、しかし、教育を充実し教育成果を高めてゆくためには、一方、そのための財政的裏づけと必要な施設の整備・充実ということです。

この問題については昨年来、農林省、大蔵省などとしばしば折衝を重ねてまいりました。直接に大蔵省や農林省の係官が学園を視察されいろんな点で指摘を受けたこともありました。秋浜学園長も両省の幹部の方々とじかに体当りして話し合われたこともありました。かくて、学園側と農林省側と数次にわたる協議の結果、合意に達し、大蔵省側の諒解も得ましてここに財政および施設整備を中心とした鯉渕学園経営改善計画が策定されました。この改善計画は昭和五二年度を最終年度とするものですが、この改善計画の策定によって、学園の三ケ年制教育についてのいちおうの物的な裏うちと軌道だけはついたかと思っています。

さて、この学園経営改善計画によってこれからの学園の計画を申上げますと、まず第一に教育施設の整備充実です。いままで長い間基礎実験室（化学・生物等）として古い倉庫を改造して使用していましたが、まず最初に今年から四七年度にかけての二ケ年計画で鉄筋二階建の基礎実験室（建坪八七四m²）を建設します。さらに四七年度にはこのほか園芸実験、実習室（一五〇m²）畜産実験実習室（一五〇m²）を建てることになります。四八年度には調理実習室を建てる予定になっています。これでいちおう教育に必要な実験・実習施設は整うことになります。ついで学生の生活についての施設ですが、すでに学生寮については四三年度より建築に着手し、現在、鉄筋二階建の男子寮一棟半（一二〇名収容）と酪農場の新寮（三二名収容）が出来ていますが引続き今年は女子寮の建築に移り、四九年度までに残りの一棟半の男子寮を完成し、五〇年には学生会館（食堂、浴場、学生ホール、外来者宿泊施設等八〇〇m²）を建設することによって学生生活関係の施設整備が完結することになります。できれば水浴プールも欲しいところですが、それはまだ計画のうえにあげるところまでにはいたりません。

学園の教育においてとくに重視しています農場実習については、農場が実習教育の場として、また同時に経営農場として、ともにその機能を高度に発揮し得るようにというねらいをもって思い切った整備拡充をはかることになりました。まず園芸農場においては今年から四八年までに現在の農場の周辺や敷地内の山林などを開墾し約六ヘクタールの耕地を殖すことになります。すでに今年にはいって三ヘクタールほど開墾が進み、この夏作から作付けをはじめています。全部の開墾が終りますと園芸農場は現在七ヘクタールが一三ヘクタールの農場になる予定です。一方、日本農業の発展の方向にそうて、いままで貧弱であった施設園芸の大規模化を構想し、四七年から四九年までの三ケ年計画で育苗施設まで含めて鉄骨大型ハウス六棟六、〇〇〇m^2を建設することにしています。もちろんその内部の装置は出来るだけ自動式にして今日もっとも進んだ方式にする予定です。出荷施設や深井戸給水施設なども畑地灌漑も同時に出来るように附設することになっております。すでに初年度である四七年度の建設予定の二〇〇〇m^2の鉄骨大型ハウスについての具体案を検討中です。こうして、園芸農場は将来大型施設園芸を目玉としてそれに果樹、露地野菜、普通作物を体系的に複合した農場として整備してゆくことになります。

酪農場については、今年を初年度として、五〇年までに搾乳牛を四四頭から一〇頭を殖やし、五〇年には成牛五四頭、育成牛二七頭、計八一頭にもってゆく計画です。それにともなって施設の拡張をはかることになり、四七年度に乳牛舎一棟、四八年には牛乳処理室の拡張、四九年にはサイロの増設を計画しています。酪農関係の拡充と整備が完成しますと、その頃の情況をみたうえで、出来れば五〇年頃から養豚、養鶏部門を設置することも考慮しています。

以上が五〇年頃までの学園の整備改善計画の大様ですが、なお、この五〇年までの計画の完成を第一期計画とすれば、第二期計画として五一年、五二年の二ケ年にわたって教室、講堂、本館の建築にかかることになります。計画では五一年には教室（五〇〇m^2）、講堂（四九五m^2）、五二年には本館（六一〇m^2）を完成することにしています。

五二年といえば随分先のように思われますが、今年を含めて七ケ年ということは決して長いとは云えないかと思います。この間に、これだけの建設を遂めてゆくことは学園にとっては容易なことではありません。以上の計画を実施するためには、現在の価格で計算して約二億九千万円の金を必要とします。そのうち農林省からの補助金として予定されるのは約一億七千万円程度ですから自己負担が一億二千万円程度になります。これは現在の価格による計算ですから、物価の上昇のはげしい今日、実際はこれよりももっと大きな金額になりましょう。学園の財政は経常費をまかなうことでもなかなか骨の折れる実情にあって農林省、農業関係団体、その他各方面にかなり無理なお願いをして切り抜けてきておりますが、ここで新たに一億二千万円にのぼる資金を調達することはなかなか容易なことではないかと思います。しかし、それがいかに困難であってもなんとしてもやりとげなければならないことと覚悟しています。

学園はいわば過去からの脱皮の時期にあるといえましょう。三ケ年制を軌道にのせ、それを入れるためには新しい袋が必要です。今回の学園経営改善計画は過去の袋から新しい袋へ脱皮してゆくための計画です。過去を踏まえて過去から脱皮してゆくことによって成長と発展がもたらされます。この度の改善計画は学園が過去から脱皮してゆくためにはたとえ財政的には非常に困難であっても是非やり遂げねばならないことです。それだけにわたくしたちは責任の重大性を痛感しています。学園の教職陣容はかなり充実してきました。学園の教職員をはじめ全員一丸となってその責任を果すべく努力しておりますので、同窓生各位においてもご支援のほどを切にお願いします。

第十回同窓会大会の開催について

五月八日・九日の両日、和田会長、石井副会長はじめ常任委員各位にご参席いただいて、四五年十月から四六年三月に至る同窓会の経過報告、会計報告、ならびに鯉渕学報や名簿発行、第十回同窓会大会についてご審議いただきました。学報や名簿については事務局だよりで触れたいと思いますので、ここでは大会についてお知らせやらお願いやら致したいと思います。

一、大会の日程　十一月三日（水曜日）

文化の日ですが、週のほぼ真中、遠くからおいでいただくのには不都合が多かろうと存じます。しかしよい代案もなく、次のような計画をたてております。

十一月三日　九時から

受付――教務課前で受付を致します。

学園は当日平常授業ですが、事務局で学内の案内から説明など計画したいと思います。先生方にゆっくりお会いになるのは、二日が良いと思います。受付はおそくまでやっておりますから、必らずお立寄り下さい。

受付で名札をつけていただき、大会経費もお願い致します。

宿泊――二日夜は、農林省機械化研修室の宿泊施設、学園の若竹寮（旧小出先生宅）、来賓宿舎、男子・女子の学生寮などに宿泊を予定しておりますが、各自、受付でご確認下さい。当夜は同期・同県の集い、学生諸君との懇談、舎宅訪問等々に存分のご利用を。

十一月三日　九時から十五時まで

総会（九時から正午まで）――新館三番教室（二階の大教室）

報告事項もたくさんありますが、47・48年度の事業計画と予算案の審議、支部組織の拡充強化や、本部事務局の強化、役員の改選など、ご審議いただきたいと思います。

懇親会――昼食を兼ね、新館一番教室（二階の大教室）で開催致します。秋浜学園長はじめ諸先生にもご臨席願いたいと思っております。正午から午後三時頃までの予定です。

閉会――懇親会終了次第、新役員は第一回常任委員会（教務課会議室で）。解散。

大会参加経費――十一月二日夕食・宿泊・三日朝食で五百円。三日懇親会千円。合計千五百円の大会参加費をお願い致します。

大会出席の申込み――宿泊・食事・懇親会の準備の都合上、支部或は個人で、九月末から十月中頃までに必らずお申込み下さい。

昭和47年度 学生募集

一、募集人員　本科（三カ年）

農業科（男女とも）

園芸コース　四〇名

畜産コース　四〇名

生活栄養科（女子のみ）　四〇名

合計　一二〇名

二、応募手続

①願書、②身上調査書、③身体検査書、④課題による作文（以上①～④は、本学園所定の用紙を使用すること）、⑤高等学校の調査書（特に各科目の評定、学習成績概評、成績段階別人数、所属する科（学年）の総学生数、行動および性格の記録等を明確に記入すること）、⑥現住地の市町村長、農協組合長、または学園卒業生などより、家庭の事情や本人の将来の希望などを含めての推薦を得たものは、その推薦書。

入学願書など所定用紙の請求や、募集の詳細は学園教務課に問い合せて下さい。また、学費の問い合せもしばしばありますが、今年二月調査の「入学初年度一人一年分経費調査」では、年間二十六万五千四百円となっております。この中には、帰省や個人的旅行の経費は含まれておりませんが、学園に納入する諸費、食費など十八万九千四百円、本代二万円、学用品類二千八百円、実習着などを含めての被服費一万一百円、新聞映画など一万七千五百円、理髪・洗濯・医療など一万二千二百円、交際費その他一万三千五百円となっております。先日、食費など若干値上になりましたし、理事会では授業料など学生負担金も物価高や施設拡充などの為に、或程度の値上げを検討中と伺っておりますので、年間三十万円、月額二万五千円程度の学費と概算していただいてよいかと思います。ご存じのように町から離れておりますので、アルバイトなど思うようにありませんが、却って地の利と考えて節約し、勉学に励んで貰いたいと、期待しております。

どうか、今年も学園に学ぼうとする前途有為の諸君を、一人でも多くご推薦下さるようお願い致します。

昭和46年度・入学生

本科園芸コース　50名

同畜産コース　24名

同生活栄養科　31名

本科卒業生・出身県別一覧表

昭和21年卒（1期生）から45年卒（25期生）

北海道（二〇五名）・青森（二八）・岩手（九九）・宮城（三五）・秋田（六二）・山形（九〇）・福島（九七）・茨城（二四四）・栃木（七〇）・群馬（四六）・埼玉（二三）・千葉（三三）・東京（一四）・神奈川（三）・新潟（一一八）・富山（五六）・石川（二二）・福井（四四）・山梨（一四）・長野（一五四）・岐阜（二六）・静岡（四六）・愛知（二〇）・三重（二四）・滋賀（一〇）・京都（四六）・大阪（六）・兵庫（五七）・奈良（八）・和歌山（一二）・鳥取（四三）・島根（六一）・岡山（一九）・広島（八五）・山口（五二）・徳島（一九）・香川（三二）・愛媛（三五）・高知（二三）・福岡（二八）・佐賀（三九）・長崎（二〇）・熊本（四四）・大分（一四）・宮崎（六六）・鹿児島（八九）・沖縄（三九）・合計二三八八名

学園人事移動

46・3・15　出向　前田俊英

教務課から、協同組合学園へ

46・4・26　採用　木下孝正

八ケ岳中央経営伝習農場から園芸農場へ

◈◈◈ 学園みたまま ◈◈◈

少々前の話になるが、日本写真新聞社から電話があり、鯉渕学園の話はいろいろ聞いているが、実際にこの目で見、学生諸君とも話してみたい。出来れば写真も一―二とらせて貰いたいが、ということであった。学園では別に差支えないし、学生諸君にも話しておくからと返事して電話をきった。しばらくたって近々中にお尋ねしたいのでよろしくとの連絡があり、記者とカメラマンのお二人が見えられた。研究室で四方山話をしているうちに、記者の大原隆夫さんは群馬県出身だということで、同県出身の学生に学内の案内やらお世話やらを頼んだ。寮に一泊されて翌日の午後、帰りのご挨拶を受けたが、お役に立ったものやら知る由もなかった。

その後、一―二カ月もたった頃、日本写真新聞社から、訪問記録を掲載した冊子「農協の共済」がたくさん送られて来た。大きなカラー写真など併せて四葉、それに「視野の広い人材を養成する学園」という見出しで、次のような文がのっている。学生諸君にも分配したところ「少し品(ひんい)位月のようですが……」と頭をかいていた。ここに文章だけ紹介し、最近の学生生活の一端を想像していただきたいと思う。

日本の農業は曲り角にきている――こういわれてからすでに久しいが、いつの世でも曲り角に立っているのが、日本の農村かもしれない。米価問題、農産物の貿易自由化、後継者問題、どれをとっても切実な問題が目の前にある。でもいまの農村の意欲ある若者たちは、けっして悲観はしていない。こういう世の中だからこそ、自分の存在価値が出てくるのだと思っている人も少なくない。

茨城県東茨城郡内原町鯉渕にある鯉渕学園の学生たちもそういう人の仲間である。農村に嫁が来ないということなど、オレたちには関係ないと思っている人が大半だ。実にたのもしいかぎりである。

○自由なムードで全寮制

鯉渕学園は上野から常磐線で一時間。友部駅から四キロメートル東にある。五〇ヘクタールの広大な構内をもつ理想的な学園だ。

昭和二十一年に創設、いま高校を卒業した学生が二二〇名ほど学んでいる。そのうち九〇名は女子。全寮制、農業科、それに女子のみの生活栄養科。四五年の四月から三年制。出身地は全国さまざまで「他県の人と交流するだけでも人生上のプラスになる」という学生もいる。

いま全国でゲバ学生が問題になっているが、ここではそんな気配はぜんぜんない。学園内は非常に自由で、抑圧された空気がないため、ゲバる必要もないのだろう。男子寮は門限時間がなく、一部屋に二―四人で生活。その組合せは必ず一年生と二年生が一緒になる。女子寮は午後十時が門限で、男子でも往来は自由。もちろん、男子寮に女子が来るのも自由だ。

食堂の運営から、売店の経営まで、自治会が行なっているし、いろいろな学園内の規則はすべて自治会がつくったものだ。ただ一つ男子にとって規制らしい規則は寮内で飲酒できないこと。これも彼ら自身がきめた規則なので、一部に不満はあっても、よく守っている。

○木立の中の静かなキャンバス

学園の目標は――広い視野に立って、積極的に生活活動できる人材を養成すること――。広いキャンバスでのびのびと生活していれば、心の大きな人間が形成されるだろう。しかし彼らにも悩みがないわけではない。それは刺激が少ないこと。激動する世間の動きをテレビや新聞が連日報道しているにもかかわらずこの学園の木立の中には実感として伝わってこない。平和すぎるほど平和なのだ。これほどのぜいたくがあるだろうか。

学生たちは朝七時半に全員でラジオ体操をする。冬のどんな寒い朝でもだれもさぼらない。なぜなら自分たちできめた規則だから。体操が終ると遠くの寮の人たちは十五分も歩いて食堂に行く。雑木林の中の道を自転車で行く人もいる。元気のいいあいさつが交されるのも、都会の学園とはちがう。食事のカロリー計算、献立も自分たちが立てたもの。セルフサービスで食器も各自洗う。八時に授業が始まる。夕方は五時半に夕食がすむと、後は自由時間である。

○よく話合う学生たち

学園内に宿泊施設があり、訪れた人が泊ると学生たちは訪問者の部屋へ訪ねていく。そしてあらゆる問題を話合う。私たちが訪れた夜も、フレッシュな農村青年が十数人話に来た。みな家に帰ってあすの農村を荷なう若者である。農村の因襲を改革したいという者、経済の確立こそ先決と主張する者、好きだという情熱が第一という者、農家は科学者でなければならないという者。理想的な男子は農業に情熱を抱いている人という女子学生もいた。農業ほど、やり方しだいで魅力ある職業はないというのがおおかたの考え方だ。そして夫婦共稼ぎだから……とつけ加えた。

○夢を実現させるためには

若者たちの夢は大きい。というのは現実がまだ魅力に乏しいともいえる。彼らが実社会に出て座折感を抱くような農村にしてはならないのだ。おとなたちはフレッシュな青年の理想を少しでも実現させるために積極的に援助をし、暖かい眼を注いでやらねばならない。この若者たちと共に喜び、共に悩む社会を一日も早くつくりたいと思わずにはいられない。

（文　T・O）

除草談義

前 鯉渕学園教授
藤岡孟彦

こんな題をつけたが一般に通じた話をするのでなく、「私」だけの経験に基づいた物語にすぎない。其積りで御読みとり願いたい。

僅かな庭と私道を持つ我家も、三年前に此土地を手に入れた当時の草花々の有様を思うとどうやら庭らしく、私道もまずまず道路らしく成った。千葉市から引越して来る時、心に誓った事は今度の家は近所に全く見られない「草」のない家に必ずして見せるということだった。

私の除草のやり方は非近代的な手取りである。戦前から日本より先に二四―Dなど除草剤を使い出した米国にも〝ホーを捨てるな〟という言葉がある。これは此頃喧ましい農薬公害には関係ない戦前時代の言葉だ。手取り除草は能率こそ低いが効果は的確そのものだ。私の如き閑人には持って来いである。

さて其やり方の基本方針は二つある。(1)はなるべく雑草の若い内に出来るなら双葉の内に引抜く。(2)これを連続的に、出来るなら毎日行うのである。私は若い頃、細菌学を学んだので今以て、純粋培養やパストリゼーションの観念が抜けない。除草は前者の意味でやり、之を完遂するには後者を行うのが極めて有効である。連続除草する訳は、雑草の生長が早く、又、ごく小さい間に抜取りするのは、その開花結実を抑えるためだ。例えば発芽から結実迄の最短期が、ナズナ・一七―二五日、ヒメムカシヨモギ・二五―三〇日、スベリヒユ・二〇―二五日、メヒシバ・二五―四〇日であり、種子の生産量（一株当り）は、株の大きさが中大のものでナズナ・二二、三七二、ヒメムカシヨモギ・五九、九六〇、スベリヒユ・三四、四一〇、メヒシバ・三二、七八〇である。要するに発芽生長後の栄養生長期がごく短いため、早く生殖生長に転化して開花結実する。又雑草の種子は著しく微小で、且、脱粒性も極めて強いので散布に都合が良い。多年生の雑草になると我々にとって厄介な事にその体の断片が再生力強く、稈や茎の基部、根茎などから再生する。

話が脇にそれるが、此連続防除は害虫にも適用して効果が確実である。鯉虫などは此方法以外に駆除法はないと言ってよい。

次に我家の庭、私道、講際の雑草の種類を列記する。夫体発生の季節による。

早春（三月頃）イヌノフグリ、ナズナ、ノミノフスマ、ミミナグサ、スズメノカタビラ、ハコベ

春（四月頃）セリ、アカザ、ナチコグサ、ハハコグサ、チドメグサ、ハルノゲシ、ヒメジョン

夏（五月以後秋まで）ヨモギ、カタバミ、ツメクサ、サギゴケ、オニタビラコ、イヌガラシ、スズメノテッポウ、ギシギシ、ヤブカラシ

秋（九月以後）アキメヒシバ、オイジリ、スベリヒユ、コニシキソウ、イヌビエ、エノキグサ、ツユクサ、メナモミ、稲にブタクサ。

除草はどんな馬鹿でも出来るといった人がある。普通の除草といえば、草が大きくなってから行い、抜取りにくいため鍬で打起したり、鎌で切取るのだから、全く機械的作業であって、本当の意味の除草とは云えないと思う。例えばヨトウムシの薬剤撒布を五令以後に行っているようなもので効果は到底期待できぬ。其証拠に三週間乃至一ケ月も経つと、雑草の繁茂は元通りになってしまう。本当の意味の除草とは雑草の性質を正しく理解し、自然界との関係に基づいた方法でなくてはならない。どんな馬鹿でも出来る作業ではないのである。

自然界に生を享けたものは悉く生存競争の規制を受ける一方、自然の平均作用を受けつつめいめい生存権を発揮する。雑草とても例外ではない。人為の加わらない自然状態では時間的に見れば栄枯盛衰の違いこそあれ、全生物は平均作用を受け何れも過度の蕃殖が抑えられて、そこに自らバランスが成立っている。だから自然界では雑草は無用なものではない。

〝天地全功無く万物全用無し〟と昔の人が説いたのは確かに真理である。唯、農業に於ては作物栽培上雑草は有害であるし、「庭」では不体裁であるため、之を生やさぬか、除く事が必要になって来る。

我庭は私の労力により雑草極めて少く大変音痴になったものの、自然の原則に反いた事をしているため〝水清ければ魚棲まず〟という諺通り片附き過ぎて反て一抹の淋しさを免れない。

世の中に二つ良い事はないとつくづく思い当るのである。

今、雑草対策として私が考えている事は、除草の逆手で抜取りを行わず生やさぬ方法がないかという事で、思いついたのは他の植物を植えて「草」の発生を抑えるのである。花木や花卉の多い庭では行れないが、我家の講周辺ならばやれそうである。ここは禾本科の草（スズメノカタビラ、スズメノテッポウ、ヒエの類）が多く、まあ空地の様なものだが、まず深耕してサトイモを栽える考えなのである。何故、サトイモを選ぶかというに、

我庭にヤツデがあるが、其木蔭や近くには「草」が極めて少い。此は葉が大きくて光を遮り「草」の発生を抑えるに因る。又、サトイモは概ね生育期間が長く、恰も雑草の生育期と重り合い抑制に好都合だからである。新に開墾した土地にサトイモを作る習慣があるとも聞いている。

手不足と老令のため、残念乍ら未だ実行に移していないが、もし成功すれば逆手式雑草防除になるのだが。同窓諸君に御経験があれば御きかせを願いたい。

尚、庭園花卉の雑草化、雑草のすみわけ、越年性など問題も多いが、観察、考究不十分故、又の機会に譲る事とする。

研究をかえりみて

福井大学教育学部　仙城　律（九期生）

この度「オウレンの短期栽培に関する研究」と云う論文で東京農大より農学博士の学位を授与されたが、この研究は十六年あまりもかかってぽつぽつやっていたので、あまり苦労したと云う感じはしない。

人並み以上に遊び、研究は気の乗ったときにばりばりやると云う方法で気永に続けてきたし、学会（日本作物学会）なども春の東京大会はあまり出席せず、もっぱら調査と観光をかねて秋の地方大会に出ていた。

たとえば岩手の学会（昭和40年）に出席したときは、まず青森から十和田湖とその近辺を廻って盛岡に出て、岩手大学農学部で行なわれた学会に三日間、学会終了後は八幡平を三～四日さまよう予定だったのが雨に降られたため、東北農試の先輩方に一席設けて頂き夜の更けるまでごちそうになり一泊、その後は、中尊寺、松島、吾妻磐梯のコースを廻って会津若松に着いたころは、心身ともに疲れはて、郡山から廻り道して学園に立寄り、西村先生のお宅と翌日は茨大の鈴木先生（九期生）のお宅で旅の疲れを休め、更に埼玉県の春日部にある国立薬用植物栽培試験場をたずね十二日振りで家に帰えるといった調子でした。

那智、智頭（鳥取）、大山、平泉、日光、乗鞍など学会のついでに採取してきた各地のオウレン十余種、今でも大事に育てています。

はじめのうちは学位など全く意識せず、自分の性分に合った仕事だと思ってやっていたのですが、そのうちオウレンの研究も福井大学紀要に第七報まで出し、学会発表四回目ころに勧めて下される方があったので、半信半疑で論文をまとめて東京農大の山崎守正教授に見て頂いたのがたしか昭和42年秋だったと思う。

その後、副査教官や他の先生方の御指摘により、図・表のタイトルや説明を英文に直したり、数値の統計処理、章、節の組かえなどで三回ばかり書き直して正式に受理されたのが四十五年末でした。

論文のボリュームは、本文、数表、図表、写真など合わせて四〇〇字詰原稿用紙百十六枚で、薄っぺらなものになったが、これは審査して下される先生方の身になって、できるだけ不要な部分は整理し、要点だけをずい分苦労してまとめたつもりです。

ところで「オウレン」といってもほとんど一般には知られていないので、少しばかり紹介しておきます。

オウレンは、わが国各地の山地樹陰に野生している「きんぽうげ科」の多年生草本で、オウレン属には、キクバオウレン、セリバオウレン、コセリバオウレン、バイカオウレン、ミツバオウレン、コシジオウレンなどがあります。

栽培されているのは、キクバオウレンとセリバオウレンで他は高山性植物です。

オウレンの根茎に三～七％のベルベリンと云うアルカロイドを含有し、健胃、整腸、殺菌、抗菌作用、血圧降下作用などがあるため、漢方薬や製薬原料として古来需要が多く、貴重な薬用植物です。

おもな栽培地は、福井県、岐阜県、兵庫県、鳥取県などの山間部で、特に福井県は栽培面積も多くわが国産額の六〇～七〇％を生産している。

ほとんどは岐阜県境に近い山奥で、どうしてこんなところに人間が住んでいるのだろうと思われる所に点々と二〇～三〇戸の部落があり、その部落の人々が更に二～三時間も山に登ったところに出作り小屋を作りオウレン畑を管理しております。

福井市からだと一番近い栽培地でも片道四時間はかかるので、朝六時ころに起きては、調査に出かけたものです。

近年は、それらの部落も離村者が続出し、無住部落が多くなり、奥地でのオウレン栽培も将来はなくなるものと思われます。

そこで平担地のもう少し人口密度の多い農村でも採算の合うような短期栽培法と云うのが私の研究です。

オウレンは元来、日かげ植物で強い陽光にさらすと葉緑素が破壊されて、葉色が黄化してN欠状態となるが、窒素肥料を上手に補給すれば直射日光下でかえって乾物生産が増加すること、またアルカロイド含量も、植物体のN濃度が高いほど多くなる（アルカロイド中に取り込まれるNは10アール当り約4kgである。）従って、施肥および遮光を最適状態に保つ

ことによって収量・品質ともに高めることを実験的に証明したが、「薬用植物で栽培法によってその成分を増加させた例は過去にないので、もう少し検討してみる必要があるのではないか」と云う意見が出されて困っていた矢先、幸運にも昨年夏、日本生薬学会でオウレン栽培に関するシンポジュームを企画し、薬学関係、栽培関係者から多数の意見が出されたが、オウレンのアルカロイド含量は土壌の肥沃度や肥培条件によって顕著に増加すると云う意見が多く出され、私の研究に対する批判も好転しました。

私の研究は一段落したとは云え、手のつけやすいところから片づけていったので、まだまだ私の手に負えないような問題がたくさん残されています。また栽培農家とどのようにむすびついていくかも今後の課題ですが、今までのペースでぼつぼつやってゆきたいと思っております。

同窓生短信

第4回青年の船団員として、東南アジア六ケ国を巡航してきました（石井善兵衛・山形・20期、斉藤和彦・福島・22期、松井孝司・群馬・24期）。

昨年、酪農・養蚕・稲作を三本柱とする専農の長男に嫁ぎ、今までのBG生活で味わえなかった楽しみを味わっております（田中美和子・長野・22期）。

農林省農試企画連絡室から草地試験場草地計画部に転勤、ようやく待望の研究に専念できる身になりました。そのうちお伺いします（中村恵一・栃木・4期）。

著書紹介

鞍田純著

農業近代化の理念と農民

B六判／二二三ページ。定価四〇〇円／〒一一〇円。農山漁村文化協会。

昭和四十五年三月、鞍田先生が学園長をおやめになった機会に、二十数年にわたる先生のご指導に感謝の意を表したいということで、学園卒業生を中心に関係深い方々に呼びかけて募金いたしましたところ、約千名のご賛同を得ることができました。

さっそく、この浄財の使途について先生にご相談申し上げましたところ、先生はたいへん感激され、「せっかくだからいままで時に折に書いたり発表したりした論文を整理加筆し、一巻にしたい」とのことでした。

この本は、右のような経過でできあがったものです。内容は、日本農業の近代化とそれを推進する人間の問題について、先生らしい整然たる論理を格調高い文章で説かれてあります。

現在ほど、日本農業を歴史の流れの中で見直す必要のある時期はないと思います。その点でたいへん教示をうけるものと思います。十分熟読玩味していただきたいと思います。

鞍田純先生勇退記念出版会

本書は学園図書館でも在庫があります。ご希望の方は送料を添えてお申込み下さい。

渡辺正信著

田植機利用のイネつくり

B六判／二〇五ページ。定価一六〇円／〒八〇円。農山漁村文化協会。

著者は昭和二十七年、学園本科卒業、在学中は畜産を専攻し、茨城県農試に勤務するようになっては病害虫担当、近年は農試協和試験場主任としてイナ作と取組んでおられます。このような経歴紹介と本著とは余りしっくり結びつかぬように思われるかも知れませんが、実は本著の冒頭に農試有賀場長が述べておられるように、長い年月にわたって、理論的にも技術的にも、根気よく研究をつづけての成果が本著であります。渡辺さんは努力と誠実の固まりのような人。自分が耕作しないで人の指導は出来ないと、早くから稲作を手がけ、連続して地元・千代田村のトップ。お家の構造から附属の施設まで、相談にこられる農家の皆さんに役立つようにと工夫され、地域の発展にも大きな貢献をされておられます。出版されるとすぐ一冊いただいたので、学生諸君にも紹介しながら一読した。全国の皆さんには紹介がおそくなりましたが、是非ご一覧下さい。内容はその際のお楽しみに。

村上利夫著

実践農業指導論

A五判／三三四ページ。定価一五〇〇円／〒一四〇円。農業図書株式会社。

著者は昭和三十年、学園の研究科を卒業、郷里・福井県で普及員・専門技術員として活躍、今年六月から県立農業短期大学校で教鞭をとりつつ、県立総合大学設立の準備もすすめておられます。本著出版を知って、早速に書店より買い求め学園で夜々として勉学しておられた頃を懐しく思い浮べながら一読しました。表題のとおり、本書は書斎から生れたものでなく、実践の中から生れた本。村上さんならではのユニークな著作です。学生諸君にも紹介し、またこの会報で、著者の「まえがき」を紹介するつもりで、コピーを準備していたところ、村上さんから手紙をいただき、また著書も一冊お送りいただきました。

著者と農業図書株式会社・小島社長の厚意で、定価の二割引で入手出来る由。内容見本には、改良普及員・営農指導員必読の書!!と記してありますが、ほかの方々でも、学園を卒業したもの、ひとしく御一読をおすすめします。

申込先＝（〒一〇一）東京都千代田区猿楽町二一二一一四　農業図書株式会社。

經渕学園同窓会々員と明記して、送料と一二〇〇円を送って下さい。

同窓会事務局だより

昭和45年度・卒業（26期）生

本科園芸コース　40名、　同畜産コース　28名、　同農協科　40名、　同農村生活科　30名、　専攻科　2名、　選科　一名、　通信教育（5回生）　124名、

16期生会（卒業10周年会）の計画すすむ

先日、須田哲也さんが見えた折、今秋には卒業10周年会を計画している由。現在、発起人が日時・会場等相談中で、まとまり次第、16期生の皆さんに通知する予定。本部事務局からは、是非、第10回同窓会大会と兼ね、学園で開催してくれるよう、申入れました。楽しみに待っています。

新・会員名簿作成についてのお願い

43年10月版の名簿が残部数冊になり、会員数もさらに五〇〇名加わって、四千名を越えることになりましたので、今年10月末を目標に新版の作成準備をすすめており、八月中旬に印刷にまわしたいと予定しております。

同封の折込み「住所等の不明者」表、前回（45年12月末）の会報14号が発送出来ないか、返送されてきた会員ですが、これらの方々の住所・勤務先等ご存じの方は、是非お知らせ戴きたくお願い致します。

『鯉渕学報』第一号　完成近し

すっかりおそくなって、ご執筆いただいた方々、早くからご注文いただいている方々には、特に申訳なく存じおります。執筆予定者、出版費、事務の都合などで、内容も当初計画と変った点もございますが、五期平山嘉夫さん（茨城県経営専技）の並々ならぬご尽力と、関係者のお力添えで印刷もすすみ、程なく完成の予定です。執筆者と注文者には即刻おとどけ致しますが、今後のお申越にも応じられるよう、準備しておりますので是非ご購読下さい。

予価（〒共）・一部三〇〇円。

磯部重光さん（福島・二期）逝去

今年3月、福島県支部からの訃報を受け、愕然と致しました。久しぶりに尋ねてくれた磯部さんと学園を歩いたのはついこの前だったのに……ただただご冥福を祈るのみ。

竹下盛雄さん（九期・島根）島根県県会議員に当選される。

仙城　律さん（九期・福井）農学博士に

同窓会費納入状況

会報14号で会費納入のお願いをしましたところ、多数の方からご送金をいただき、本部事務局の台所も久しぶりの、いや発足以来の好気分です。昨年10月から今年3月までに五〇万円、一昨年10月から昨年9月までの一カ年分とほぼ同額です。ほんとうに有難うございました。今後ともよろしくお願い致します。

本科卒業生就業状況（45・9・30）

職種別 / 卒業期別	農業	団体職員				公務員			教育機関	民間会社	その他	合計
	自営	農協関係	その他	小計	普及員	試験研究機関	その他	小計				
1期～18期	365	348	76	424	207	74	242	523	66	147	49	1,574
19期	19	36		36	18		7	25	1	8	8	97
20期	11	38		38	16	1	5	22	1	2	3	77
21期	11	36	1	37	13		1	14	1	3	4	70
22期	36	42		42	10	3	3	16	3	8	9	114
23期	40	68		68	16	2	3	21	2	10	9	150
24期	35	61		61	18		4	22	5	7	12	142
25期	37	87		87	8	4	9	21	2	9	8	164
合計	554 (23.2)	716 (30.0)	77 (3.2)	793 (33.2)	306 (12.8)	84 (3.5)	274 (11.5)	664 (27.8)	81 (3.4)	194 (8.1)	102 (4.3)	2,388 (100%)

編集後記

五月下旬か六月上旬に発行を予定しておりましたのに、大へんおそくなってしまいました。卒業・入学と続いた外に、今年は、学園の経営改善計画立案のため忙しい毎日でした。鯉渕学報の発行や会員名簿の発行、第十回大会の諸準備なども進めながらの仕事ですから、相変らず杜撰なものになって申訳ありません。

幸い、石橋先生には、トップ記事をご執筆いただけましたし、藤岡先生にはご病気が全快なさらぬところ、浄書された長文の「雑草談義」をご寄稿いただきました。また、仙城さんにもご多忙の中、研究生活を省みて一筆お願いすることができました。記して厚くおん礼申上げます。

定形郵便の範囲で、名簿作成資料の同封を考え、会報を八頁にしましたので、支部だよりや同窓生短信を割愛せざるを得なくなってしまいました。次号では、その分と、第十回大会の報告などを中心に、十二月上旬頃、編集発行したいと計画しております。何分のご支援、ご協力をお願い申上げます（46・7・1）。